

## 【技術名】全量基肥施肥

# 緩効性肥料を用いた全量基肥施肥により追肥作業がなくなり 暑い時期の重労働から解放されます！

## 【技術の要約】

地域の気象条件・品種に最適な緩効性窒素肥料を基肥用の速効性窒素肥料と配合し、肥料全量を基肥時に施肥すると、穂肥時期に窒素が溶出するため穂肥作業を省略できます。

## 【技術の内容】

- 1 平坦地のコシヒカリ級の品種ではシグモイド型 100 日タイプ、中山間地のあきたこまち級の品種ではシグモイド型 60～80 日タイプの緩効性窒素肥料を用い、慣行の穂肥相当量を基肥用の速効性窒素肥料と配合して施肥します。
- 2 緩効性肥料（被覆尿素肥料）にはリニア型<sup>注1)</sup>とシグモイド型<sup>注2)</sup>がありますが、本技術に用いるシグモイド型は一定期間の溶出抑制のあと、通常の穂肥時期に窒素の溶出が開始します。
- 3 緩効性肥料は窒素の吸収利用効率が高いため、配合割合が多い施肥では減肥が可能です。緩効性肥料を全窒素の 50% 配合した場合には 10～20% の減肥が可能です。

注 1) 初期から徐々に溶出し、その累計溶出カーブは直線的

注 2) 初期の溶出が抑制され、その累計溶出カーブは S 字型

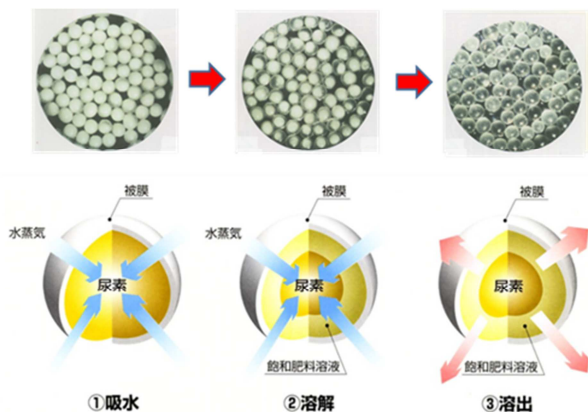


図1 緩効性肥料の窒素溶出の仕組み(被覆肥料)  
(ジエムアグリ(株)、セトリ化成(株)提供画像)

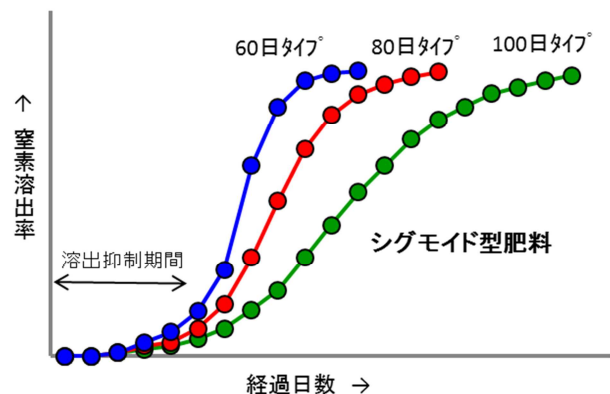


図2 シグモイド型肥料の窒素溶出経過

## 【留意事項】

- 1 この技術は、平成 11、12 年度普及技術です。
- 2 更に省力性の高い育苗箱全量基肥施肥用（平成 9 年普及技術）や直播用の全量基肥施肥（平成 16 年普及技術）も参考にしてください。
- 3 この技術に基づいて製造された全量基肥施肥用肥料が、各地域用に成分調整して各 JA から販売されていますので、これを用いれば肥料の配合等の手間は必要ありません。
- 4 施肥時期は田植え 1～2 週間前を想定していますが、あまり早めすぎると、窒素の溶出も早まって肥料効果の低下や倒伏等の原因になりやすいので、過度な早期施用は避けます。